

親愛なる皆さん、おはようございます！

農民画がミレーの絵に「種をまく人」という有名な絵があります。

袋に種を入れて種を手につかみ蒔いている人の姿を描いています。

昔、学校の美術の本にも出ていまして好きな絵です。この絵は現在は

ボストン美術館と日本の山梨県立美術館に本物があります。ご覧になられた方もいやっしゃるかもしれません。ちなみにミレーの誕生日は10月4日でわたしも誕生日は同じで親近感を持って来ました。人は小さなことでも親しみを感じるのですね。コロナ禍の中、小さなことの感謝と喜びを見つきたいと願っています。

今日はイエスさまが話された「種を蒔く人のたとえ」からイエスさまの思いを聞き取りたいと願っています。

約2000年前のイスラエル、バレスティナ地方では、きれいに耕した畝に一粒ずつ種を蒔くのではなく、ミレーの絵のように、袋に種を沢山入れて、種を手ですくって畑に投げて蒔くような方法だったようです。かなり大雑把な方法だと思います。荒れた地の多い土地の方法であったのです。ですから今日のたとえのように蒔かれた種は風が吹いていればいろんな場所に落ちるのです。主イエスは弟子たちに、神の国、神の愛の支配を「種を蒔く人」のたとえで弟子や人々に教えられました。また初代教会のイエスさまを伝える宣教の働きの困難さと喜びをも汲み取ることができます。

主イエスは、たとえ話をよくされました。

たとえ話は聞く人の聞き方によって、それぞれに意味を受け取れます。

今日わたしたちが良く使うような情報や知識の数々とは異なっているようです。世界中、たとえ話がありますが、たとえは人生の深い意味を伝えることにも適した方法のようです。そういうわたしは、たとえ話はちょっと苦手な、典型的な現代人かもしれないと思ったりします。

きょうの箇所は三つに分かれています。

1節～9節は、たとえ話そのものです。

10節～12節は、たとえを用いて話す理由です。

13節～20節を見ますと、「種を蒔く人」のたとえの説明が記されています。

まず10節～12節には、イエスさまがどうしてたとえを用いて話すのかその理

由を弟子たちは気になっていたようです。

イエスは、弟子たちに旧約聖書のイザヤ書の言葉を用いて、 NO.2
ここでのたとえは、神の国の秘密についてであること。

また弟子たちには、神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、
すべてがたとえで示されると語られます。

旧約聖書の預言者イザヤ書 6 章 9 節～10 節にあります。12:それは、／『彼
らが見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、理解できず、／こうし
て、立ち帰って赦されることがない』／ようになるためである。」

原文とは少し違っているようですが、主旨は同じで、
これは神の言葉を聞く人が神のことを知って、悔い改めて神のもとに戻って来
ること。しかし見ても認めず、聞いても理解せず、
立ち帰って赦されることがない、ことがあるという現実を告げています。

神に戻らない人々がいること、愛なる神さまとの関係を持とうとしない、交
わりに入らない人々も現実にいることを示しています。迫害時代のキリス
ト者と教会の姿を想像するのです。しかし種を、聖書のことば、み言葉を
蒔いていけば、苦難はあってもやがていつか、必ず収穫の時が来ることが
約束されているのです。神さまが働かれるからです。

有名な詩編 126 編 5 節～6 節。「涙と共に種を蒔く人は喜びの歌と共に刈り入
れる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は束ねた穂を背負い喜び
の歌をうたいながら帰ってくる。」とあります。主イエスに従おうとする者
たちや教会の苦難と忍耐、大きな喜びでもあります。

では、13 節以下の「種を蒔く人」のたとえの説明を参考にしながら、
1 節から学びたいと思います。願わくはひと言でも、わたしたちの心の畑に
神の言葉の種が宿りますように。それがわたしたちを生かす霊的力となり、
永遠の命につながっているのです。

◆「種を蒔く人」のたとえ

1:イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびただしい群衆が、
そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖
の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。

イエスは湖のほとり、ガリラヤ湖畔で教えはじめられます。

沢山の人々がイエスのそばに集まって来ました。今日は私たちも礼拝堂に集ま
っています。2000年前同様、イエスさまのそばに集まっているのです。

2:イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われ

た。イエスは言われます。

3:「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。

NO.3

「よく聞きなさい。」イエスが大切なことを言われる時の切り出しのことばです。まず聞こうとする心の姿勢が大切なのです 13:また、イエスは言われた。

「このたとえが分からないのか。では、どうしてほかのたとえが理解できるだろうか。 14:種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。

4:蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。

15:道端のものとは、こういう人たちである。そこに御言葉が蒔かれ、それを聞いても、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれた御言葉を奪い去る。ここでサタン・悪魔は、神を信じさせないようにする力や働き、疑いや迷いなどなど。

5:ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。

6:しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

16:石だらけの所に蒔かれるものとは、こういう人たちである。御言葉を聞くとすぐ喜んで受け入れるが、 17:自分には根がないので、しばらくは続いても、後で御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう。キリスト者としての成長を阻むもの、つまずきは多くあります。そのような信仰の成長を阻む力に負けないようにとの励ましがあるのです。

7:ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。

18:また、ほかの人たちは茨の中に蒔かれるものである。この人たちは御言葉を聞くが、 19:この世の思い煩いや富の誘惑、その他いろいろな欲望が心に入り込み、御言葉を覆いふさいで実らない。

農作物を育てている長野県の隠退された牧師から聞いたことばが忘れられないのですが、畑から雑草を完全に抜くことは不可能なのだ。ただその雑草が育てようとする作物よりも上にくることがないようにすることが大切なのだと。

雑草が御言葉を覆いふさがないようにしないと日の光があたりなくなり、実らないのです。わたしたちもイエスさまと聖書の言葉を通して、神さまの光と愛を浴びて育っていただけるのです。こうして礼拝に出席することは神さまの愛と光を受ける時なのです。

NO. 4

8:また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」

9:そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

20:良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて受け入れる人たちで

あり、ある者は三十倍、ある者は六十倍、ある者は百倍の実を結ぶのである。」

9 節「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われています。

「聞く耳」ということがいかに大切かということです。「聞く耳」とは聞こうとする意志があることです。受け入れようとする意識があることです。なぜ聞けないのか、心が違うことを考え出すからです。心が語られる言葉を拒絶するからです。

今日は聖書の言葉が命の種としてわたしたちの心に蒔かれました。

与えられた「一粒のことばの種」が育つために、神さまの光を受け続け、命の種、命のことばを育みたいと願います。

育て収穫を与えてくださるのは愛なる神さまです。

◆「種を蒔く人」のたとえ

1:イエスは、再び湖のほとりで教え始められた。おびたしい群衆が、そばに集まって来た。そこで、イエスは舟に乗って腰を下ろし、湖の上におられたが、群衆は皆、湖畔にいた。

2:イエスはたとえでいろいろと教えられ、その中で次のように言われた。

3:「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出て行った。

4:蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。

5:ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。

6:しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

7:ほかの種は茨の中に落ちた。すると茨が伸びて覆いふさいだので、実を結ばなかった。

8:また、ほかの種は良い土地に落ち、芽生え、育って実を結び、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍にもなった。」

9:そして、「聞く耳のある者は聞きなさい」と言われた。

◆たとえを用いて話す理由

NO.5

10:イエスがひとりになられたとき、十二人と一緒にイエスの周りにいた人たちがたとえについて尋ねた。

11:そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。

12:それは、／『彼らが見るには見るが、認めず、／聞くには聞くが、理解できず、／こうして、立ち帰って赦されることがない』／ようになるためである。」

◆「種を蒔く人」のたとえの説明

13:また、イエスは言われた。「このたとえが分からないのか。では、どうしてほかのたとえが理解できるだろうか。

14:種を蒔く人は、神の言葉を蒔くのである。

15:道端のものとは、こういう人たちである。そこに御言葉が蒔かれ、それを聞いても、すぐにサタンが来て、彼らに蒔かれた御言葉を奪い去る。

16:石だらけの所に蒔かれるものとは、こういう人たちである。御言葉を聞くとすぐ喜んで受け入れるが、

17:自分には根がないので、しばらくは続いても、後で御言葉のために艱難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまう。

18:また、ほかの人たちは茨の中に蒔かれるものである。この人たちは御言葉を聞くが、

19:この世の思い煩いや富の誘惑、その他いろいろな欲望が心に入り込み、御言葉を覆いふさいで実らない。

20:良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて受け入れる人たちであり、ある者は三十倍、ある者は六十倍、ある者は百倍の実を結ぶのである。」